

## 漢方薬治療の実際（後編）

吉良内科循環器クリニック 院長 吉良 哲也



前回に引き続き漢方薬治療についてお話します。病気や症状によっては、西洋薬より漢方薬のほうが有効かつ安全な場合もあります。例えば動悸で受診された患者さんに、検査をしても、不整脈等の内科的異常を認めず、ストレス等の心理的要因が関わっている場合に、漢方薬を使用して症状が改善することがあります。この際、同じ動悸という症状に対しても、使用する漢方薬は患者さんの年齢、性別、体格、体調によって異なり、使い分ける必要があります。例えば体格のしっかりした人には柴胡加竜骨牡蛎湯、喉のつかえを伴う場合は半夏厚朴湯、神経質で不眠を伴う場合は柴胡桂枝乾姜湯を用います。

このような使い分けは他の病気や症状にもあてはまり、更年期症候群に対しても、当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸等を患者さんの状態（漢方学では証といいます）に応じて使用します。

また風邪症状に対しても漢方薬は用いられます。有名なのは風邪の引き始めに用いる葛根湯ですが、葛根湯は比較的体力がある人への処方であり、体力の落ちている人へは麻黄附子細辛湯を用います。また喉の症状には桔梗湯、咳・痰には麦門冬湯、鼻炎には小青竜湯、インフルエンザ等の高熱には麻黄湯、体力が落ち食欲がない場合は補中益気湯など、風邪症状だけでもいくつもの漢方薬を使用しています。

他にも、めまい、膀胱炎、こむら返り、むくみ、腹部膨満等も漢方薬によって症状の改善が期待できる場合があります。しかし全ての病気や症状に漢方薬が有効とは言えず、高血圧、糖尿病、脂質異常症等、従来の西洋薬でなければ改善が得られない病気も多々あります。西洋薬が医療の中心であることは間違いありませんが、漢方薬を補完的に上手く取り入れることで、治療の幅が広がることが期待されます。

吉良内科循環器クリニック 大分市大字角子原 870 TEL097-522-3000